



秘書課 ☎66♦1161

竹内市長の任期満了による市長選挙は昭和33年4月20日、無投票で逸見彦太郎氏が当選しました。就任直後から課題は数多くありましたが、解決に向けて全力で取り組みました。

特に、昭和34年9月26日に襲来した伊勢湾台風の被害はきわめて大きく、復旧にかかる費用は総額28億円という膨大な金額でした。逸見市長は台風からの復興に際して、竹内前市長の「大蒲郡市開発計画」構想を引き継ぎ、復興・建設事業を積極的に進めました。翌年から本格的な復旧工事が始まり、多くの老朽化した施設の整備を進めるきっかけとなりました。また、市庁舎建設の動きも具体化し、4候補地の中から紆余曲折を経て昭和36年11月12日、現在の位置に、消防庁舎とともに竣工しました。

昭和29年4月に3町村の合併により誕生した蒲郡市でしたが、昭和37年4月に形原町が、翌38年4月に西浦町が合併し、人口約8万人の現在の蒲郡市が完成しました。市制施行に動き出してから実に10年の歳月を経て、当初の目標であった一体化が実現したのでした。

逸見市長は、市民の健康づくりのための基盤整備にも力を入れました。昭和43年の市民体育館の建設をはじめ体育施設の整備や、スポーツの普及、市民の健康づくりを推進するため体育指導委員制度の確立などに尽力されました。

在任中、港湾整備や埋立地造成を手がけたほか、豊川用水の誘致に力を入れ、農業・工業関係者にも恵みの水となりました。また、市民待望の市立図書館やテニスコートを建設し、教育・体育施設の拡充に努めるなど、蒲郡市の基盤づくりに多大な貢献をされました。昭和44年4月、逸見市長は執務中に突然倒れ、その後回復が思わしくなく翌年辞職されました。



形原町の合併(左が逸見市長)



西浦町の合併(右が逸見市長)

# 生命の海から

学芸員 山中敦子

生命の海科学館  
☎66♦1717

## ★虹は夏への扉

### ★虹の向こうに

太陽の恵みが少ない梅雨どきの、虹との出会いは本当に嬉しく楽しいひとときですね。

虹の美しさに思いをはせるとき、折に触れ思うのは、「正体不明で神秘的だから」「理解できないものだから」「こそ美しいという考え方は、自然の美と向き合うときには少しもったいないのかも？」ということです。

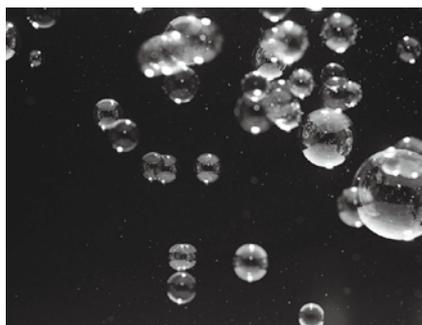
### ★知るは一層の楽しみなり

細かい雨滴によって屈折した光が強め合い、空中に描き出される7色の橋。太陽から降り注ぐ光が実はさまざま色の重ね合わせでできていること、また水の波だけでなく光にも屈折という現象が起こることなど、この世界のなりたち一端を示す

さまざまなくみがそこに凝縮されています。その奥深さを思うとき、虹の美しさはさらに深みを増すように思われるのです。「美」は見る側の心の中に生まれるもの。知識が、美を感じる心を一層耕してくれるのかもしれない。川べりの蛍の輝きも、夜空を彩る天の川も、その仕組みや正体を知ること生まれる感動と美があるのだと、私たちに教えてくれているような気がします。

### ★梅雨時のお楽しみ

と一口に、「いつでも」ちりメイク、素顔も素性も謎」の神秘的な女性に憧れる気持ちもわかります。梅雨時こそインドアに、自然の美から恋愛の妙味にまで思いめぐらすのも楽しいかもしれません。気づけばいずれ、虹の向こうに夏がやってきますよ、きつと。



虹やシャボン玉は、見た目の美しさと仕組みの美しさ、1粒で2度おいしい、科学の素敵なお楽しみです。